

おやじの
つぶやき

当たり前前の日常
妻に感謝



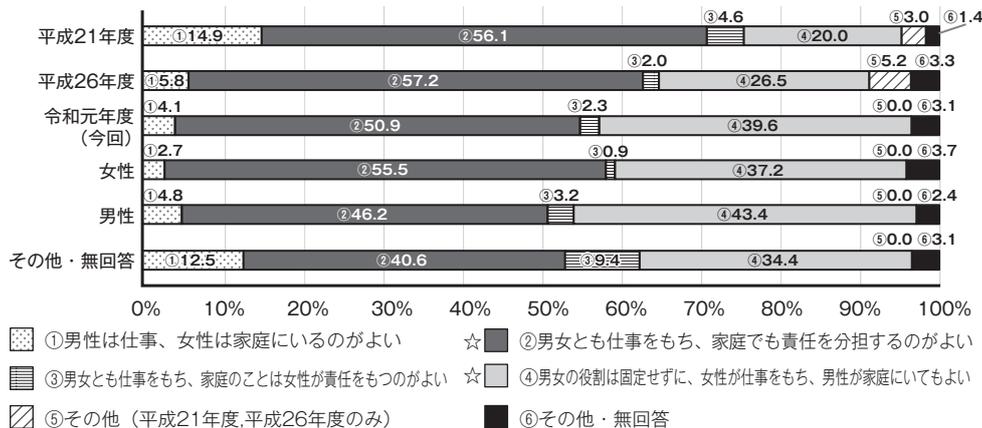
かけはし編集委員 (M・T)

妻が膝を痛め一か月入院、私(夫)は大弱り、学生時代以来40年ぶりの一人暮らし。米を炊いたり、みそ汁を作ったり。おかしは、まあテキトーに…作って食べるのはまだいいのですが、後片付けが大の苦手。お茶碗を洗うのが気になって晩酌もそこそこ。そんな思ってもみなかった現実を経験しました。

二度三度の食事を作る世の(主に)お母様方に改めて最敬礼。共働きが増えている。家事の分担はとても重要だと思えました。

追伸、洗濯はスイッチを押せば勝手にやってくれたのでわりと楽ちんでした。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について



市民意識調査の結果

人権問題や男女共同参画に関する市民意識の現状・変化を把握するための市民意識調査を実施しました。

調査の一つ「男は仕事、女は家庭」という考え方について『の結果を紹介します。』

調査期間

令和元年9月19日～10月7日

対象者数

20歳以上の男女1,500人

回収率

40.7%

※報告書は、人権・男女共同参画課HP、公民館、市民資料室でご覧いただけます。

「②男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」という意見と、「④男女の役割は固定せずに、女性が仕事をもち、男性が家庭にいてもよい」という意見の合計は、全体の約9割を占めています。中でも④の意見は、年々増加傾向にあり、特に若い年代に多くなっています。

こうしたことから、これからの社会は、「男・女」が共により良き「主夫・主婦」として、お互いを支え合い、ワークライフ・バランスの調整を図っていくことが求められるのだと思います。

女性が積極的に社会(仕事等)に参画し、男性が家事に主体的に参画していく。そうした社会になっていくでしょう。

本市としましても、そうした流れを積極的に推進するため、女性のエンパワーメント(自己決定能力)の醸成、男性の家事(育児)参画を促す施策を展開していきます。

*** 編集後記 ***

新型コロナウイルスが、家庭、学校、職場、そして社会生活において、私たちの日常に様々な影響を及ぼしています。ある保険会社が実施した家庭生活の変化についてのアンケートを紹介します。

ステイホーム期間中の子育ての変化について、男性は、「積極的に子供の面倒を見るようになった」、「子供との絆が深まった」など前向きな回答が多かったのに対し、女性は、「子供にイライラすることが多くなった」、「夫の育児にイライラすることが多くなった」などネガティブな回答が多く見られました。

これらを見ると、普段から夫婦で子育ての意識のずれを埋めるための会話が大切ではないかと思いました。(M.H)